第４回第２次厚木市教育振興基本計画策定委員会会議概要

会議の主管　　教育総務部教育総務課
会議の日時　　令和元年 12 月 16 日（月）午後３時から午後５時まで
開催の場所　　厚木市役所第二庁舎４階　教育委員会会議室
出　席　者　　第２次厚木市教育振興基本計画策定委員会委員 10 人
（事務局）
教育総務部長、教育総務課長、教育指導課長、社会教育課長、
教育総務課教育企画係長、教育企画係主査
傍　聴　者　　なし

会議の概要は、次のとおりです。

≪委員 10 人中 10 人の出席により、定足数に達し第４回委員会が成立≫

第４回委員会

１　開　会

≪委員長あいさつ≫

２　案　件

第２次厚木市教育振興基本計画の基本目標について

≪事務局説明の概要≫

資料１に基づき、基本目標「創造」の内容について説明。

≪質疑≫

委員長　前回、三つ目の基本目標を「創造」にしようというところまでいきましたが、その中身、説明には、「自分のこととして行動することの大切さ」を入れて、事務局でもう一度検討してほしいということを確認して、前回の会議は終わりました。今説明があったように三つの案を示してもらいました。それぞれの案について御意見があれば、お願いします。

委　員　１番の案は、多様な人々と協働するという言葉が印象的でした。社会では、多様な自立した個人個人と協働することで、新しい価値観を創り、社会の発展をさせていきます。これからは国際化、情報化、科学技術の進展などにより社会が大きく変化していきますので、対応していくには、多様な個人個人を尊重

して、認め合ってまちづくりをすることが必要だと思います。そういう意味で、「協働」という言葉が入った１番の案が良いと思いました。

委　員　　この策定委員会の役割として重要なのは、12 年にわたる計画を考えることです。これからは社会が予想もできないほど激変していきます。教育だけでなく、経済から医療、介護、科学技術まで、様々な分野で変わっていくので、その環境の変化に対応して創造していける人材を育成するという意味、表現になっているべきだと思います。

委　員　　私も同意見のところがあります。11 月から 12 月にトルコに行ってきました。この４年で貨幣価値は３分の１になっていましたが、高速道路が多くできて、街の活気も変わりありませんでした。なぜなのか、矛盾を感じましたが、数字上では分からない社会の変化が起きているのだと思います。「創造」の内容としては、社会の変化に対応しながら、発展し続けるということが大事だと思います。最近なるべく歩くようにしているのですが、厚木の市街地には保育園の子どもがたくさんいることに気付きます。この先、あの子たちが就学すると市街地の学校はパンクしてしまうのではないか心配になります。一方で市街地から離れた地域の学校の子どもは増えていきません。身近でもこうした二極化という変化が起きてくるので、社会の変化に対応するという言葉が入るべきだと思います。また、本厚木駅南口で厚木中学校のボランティア活動部出身の高校生が花壇に花を植えるボランティア活動を行っています。あのような活動がもっと一般的な形で広がったら、厚木のまちづくりも進むのかなという思いを抱きました。10 代、20 代の若い発想でまちを創造していく活動をもっと支援できるといいなと思いました。そうしたことから、「創造」の内容としては、「多様な人々と協働して、変化・発展していく社会の中で行動していく力の育成」という説明がいいと思います。

委　員　　創造的な営みの内容を表現するのではなく、何を創造するのかを表現すべきだと思います。学校は公教育として一定の役割がありますが、人は卒業しても、社会人になっても、定年してもどう幸せに生きるかが大切で、そうすることができる社会を創っていく必要があると思っています。

委　員　　質問があるのですが、「挑戦」「共生」「創造」は並列の関係なのでしょうか。資料１には、挑戦と共生の力を身に付けた上で、社会を創っていくと書いてあるので、創造は挑戦と共生の上に位置付けられるという解釈なのでしょうか。もう一つは、不易流行という言葉があるとおり、どんなに社会が変わっても大切にしなければならないものは何かということを押さえて理念・目標をつくるのか、又は社会が変化したときにどう柔軟に対応できる力を身に付けるのか、

ということです。どちらかというと、前者と捉えているのですが、どうなのでしょうか。

委員長　二つ目の質問については、社会が変わることを前提にこの議論をしているという認識です。社会が変わっても大事なことは何なのかということを考えていると思っています。一つ目の質問は、前にも同じ議論がありましたが、挑戦と共生の力を身に付けた先に、創造の力が求められているという議論だったと思います。

事務局　挑戦は個人の力のこと、共生は他者との関係、創造は社会との関わりというように、対象が段階的に広がっている関係はありますが、上下の関係ではないと考えています。

委　員　不易流行の考えは理解できる部分はありますが、今はそうではないと感じています。今の世の中は不易と流行という二元論で考える時代ではないと思います。社会が変わっても変わらなくても守らなければならない力は何なのかと考えると、本当にコアな部分だと思います。今の学校教育は社会の変化に追いついていけていないと感じていますし、学校はいつも社会変化の中のラストランナーになっています。逆に言うと、使命として不易のものがある訳ですが、この二元論だけでは今の問題は解決できないと思っています。社会の変化は想像以上に大きくなっていて、どんなに社会が変わろうとも大切にしなければならない絶対的なものはないと思っています。

委　員　以前の会議で、我々が考えている計画のターゲットは、幼児から高齢者まで全ての人なのだろうけれども、その中でも主なターゲットになるのは学校教育にいる子どもたちかと確認させていただきました。と言うのも、義務教育は、人間としての基礎づくり、価値観を持つための基礎・基本をつくる段階だと思います。今の不易流行の話で言えば、どんなに社会が変化しようとも本当に大切にしなければいけないものはごく狭められたものかもしれないけれど、少なくとも義務教育の子どもたちには人間の基礎として外してはならない、しっかり踏まえた教育内容でなければならないと、私は思います。そうしたものを積み重ねた中で、いろいろなものを経験し、社会の変化に目を向けることが必要ではないかと考えています。創造の内容の案には、「自ら進んで」、「自主的に」、「主体的に」と似た言葉が入っていますが、私としては「主体的」に行動していく、実践していくという気持ち、価値観を養っていきたいと思っています。

委　員　確かに義務教育が大切だというのは自分の経験からも分かりますが、今の学校教育は乗り越えなければならない問題があまりに大きくなっていると感じ

ています。なぜ、こんなに自己肯定感が低い子どもたちになってしまうのか、全国平均で１割の子が不登校傾向になってしまうのか。厚木はコミュニティ・スクールのように地域や保護者の力を合わせて教育していこうとやっているのはすごく良いことですが、学校教育だけに重点化してしまうべきではないと思っています。厚木はたくさんのメリットを持った都市なので、それをいかして生涯学習としても幅広く学べることをどう保障していくかを計画の中に入れるべきです。そのコアは学校教育でもいいけれど、10 年を超える計画期間に対応できるものであるべきだと思います。

委　員　　人間としての基礎の部分、価値観や人生に影響を与えるコアの部分で、幼児を含めて子どもが一番影響を受けるのは両親、保護者になります。その部分をしっかり教育していくために、身に付けてもらいたい大事なこと、人として押さえておきたいこと、外してはいけないことを学ぶべきだということが私の言いたかったことです。そのためには、やはり主体的に活動できる力・気持ちが必要になると思います。

委　員　　なぜ、自己肯定感が下がったのかと言うと、学びはするけれど、それをいかせない、行動に移せないという問題が学校教育を中心にあったからです。厚木中学校の生徒が高校生になっても大学生になってもまちづくりにボランティアで携わるというような姿勢を、今公園で遊んでいる小さな子どもたちにも身に付けてほしいなと思います。

委員長　　この会議では、どう具体的な言葉にするかが求められていますので、少し「創造」の内容のところに話を戻したいと思います。まず一つは、どんな風に社会と関わることが必要なのかという点です。例えば、「変化を恐れず主体的に社会に関わる」というようなフレーズはどうかと考えています。変化を恐れないということは、変化しているものを恐れないという意味と、変化していくことも恐れないという、二つの意味を包含することが可能ではないかと考えました。「主体的」という言葉は、これまでの議論の中で欠かせない言葉になっていると思います。「自主的」と「主体的」も厳密には違いますし、選ぶなら自分事として社会に関わるという意味から、「主体的」だと思います。また、「発展し続ける」の「発展」って何だろうと考えてみましたが、上手く言葉を置き換えることができませんでした。「多様な人々と協働する」の「多様」と「共生」の中に出てくる「多様性」との違い、「協働」についても重点的な取組にある「協働」とのすみ分けも考えなくはならないことだと思います。ただ、大事な言葉であれば、重ねて使うことも良いと思っています。むしろ私は、「多様な人々が活躍をする」、「多様な人々がいかされていく」というような言葉の方が、主体的という自分のベクトルと周りの人が相互にいかされるというシステム

や状況を表現できると思っています。「発展し続ける」なのか、「持続可能」なのかという問題は、今後どういう社会を創っていくのかということにも関わりますが、これは「よりよい社会」と言えば、無限の進歩というところを目指せると思います。「発展」の中身として、何か具体的なものを答えられる人はいますでしょうか。

委　員　同じような疑問は私も持っています。自ら進んで社会と関わってほしいというところは賛成ですが、「発展し続ける社会」には疑問があります。激変はしていくとは思いますが、発展するかは分かりません。むしろ後退するかもしれないので、不確かな未来を入れてしまっていいものかと感じています。「発展し続ける」を違う言葉に置き換えられたら良いと思います。

委員長　言葉にするとしたら、「一人一人が活躍できる社会を創造する」、「一人一人がその人らしく生きていける」とかであれば、どんなに社会が変化したとしても変わらない価値ではないかと思います。

委　員　言葉の属性を論じて組み立てる問題ではないと思います。この会の存在理由は、理想に近づく、理想を追求するためです。そういう姿勢がないと会議をする意味がありません。何を目指すという理想のイメージ、計画の柱にすべきものを議論して固めないと駄目だと思います。公教育があればいいという問題ではなく、公教育も変わっていくかもしれません。社会全体が教育機能を持ち、その中で効率よく人の基礎づくりをする教育機関として、義務教育は位置付けられると思います。生産性が上がることで大人に余裕ができ、さらに社会全体の教育機能が高まっていくことを前提に計画はつくるべきです。これまでやってきたことの延長で計画をつくるだけならば、教育環境日本一を実現するどころか、置いてけぼりになってしまいます。

委員長　委員が考えるより良い社会のイメージはどんなものでしょうか。一人一人はどう生きている社会でしょうか

委　員　憲法にうたわれているように、いろいろな個性、多様な人が１度きりの固有の生を全うできて一生を終えることができる社会です。私としてはかなり具体的なイメージを持っています。どういう社会に向かってほしいか、どういう人を育てたいか、そのための社会装置として学校がどうあるべきかといったことを明確にすべきです。難しいとは思いますが、前の計画の形を継承せず、本当はもっと斬新な形になったらいいと考えています。しかしながら、今出ている三つの基本目標は、変化していく新しい社会の在り様に沿っていると思っています。

委　員　　おっしゃられていることに異論はありません。ただ、理想というのは、私と他の人では合致するものもあれば異なるものもありますが、それでいいと思っています。このような基本計画は、形式的とお考えになる部分があるかもしれませんが、理想とする社会を目指すための礎となるものだと思っています。

委　員　　計画を策定するときに理想がイメージとして押さえられていなければならないということです。イメージがないのに言葉をつくることはできません。不易流行のお話は分かりますが、だからといって基本計画はそれでいいということにはならないと思います。まず何を目指すのかがないと、基本目標はつくれないと思います。言葉としては不易流行のような言葉になるかもしれませんが、そこに含まれているイメージ、意味が重要です。

委員長　　発展し続ける社会に私たちは何をイメージするのか、どういう意味を込めるかということが重要ということですね。そこがまだ上手くキャッチできていなのだと思いますが、前半は、「変化を恐れず主体的に社会と関わり」とすることで、今までの意見をいかせていると考えています。そこから、どんな社会を創るのかというところだと思います。

委　員　　私もそこはこだわるところです。全く知らない人が「発展し続ける社会」という言葉を聞いたときに、イメージがしにくいと思います。社会が発展するかは予想できない部分もありますが、変化することは間違いないです。そうであれば、「変化する社会の中で、全ての人が自分らしく社会と関わって行動していく」というような表現がいいと思います。まさに行動する力を実践してほしいということだと思います。「発展し続ける社会」は、本当にそうなるか分からないので、やめた方がいいと思います。

委　員　　シンプルな言葉で考えた方がいいですね。

委員長　　一人一人が大切にされている社会は、どんなに社会が変化しても私たちが目指さなければいけない大事なことですよね。そうでなければ生まれてきて生きる意味がなくなってしまいます。大人になったら大切にされなくなってしまうのでしたら、子どもは真面目に生きなくなってしまいます。

委　員　　広報あつぎの 12 月号にあるような社会を創造していくべきですし、この方向で更に発展させていければいいと思いました。「創造」の中で言いたいのは、今のままを継続すればいいのではないということです。環境問題にしても、お金を儲けるシステムから地球を守る取組にしていかないと意味がないのと同

じです。「創造」は、現状より良いものを創るという意味で、必然的に発展していくということになると思います。

委員長　より良きを求め続けることが、発展し続けることになるという訳ですね。例えば、資料１の１番をいかして、先ほど私が提案した「変化を恐れず主体的に社会と関わり」を前半として、「多様な人々と協働して発展し続ける社会を創る力の育成」を後半とすることでどうでしょうか。

委　員　「恐れず」を入れずに「変化する社会に主体的に関わり」としてはどうでしょうか。

委員長　分かりました。後半はどうでしょうか。

委　員　「発展し続ける社会」は「よりよい社会」でもいいと思います。

委員長　「変化する社会に主体的に関わり、多様な人々と協働してよりよい社会を創る力の育成」でどうでしょうか。

委　員　「多様な人々」と入れる必要はあるでしょうか。「共生」にも「多様」という言葉が使われています。

委員長　すみ分けをどうするかという問題は確かにあります。

委　員　挑戦と共生の力を付けた上でという表現だとすると、創造の段階では既にその力を身に付けていることになります。そうだとすると、この構成図は正しくないと思います。「挑戦」は自分の夢を追い求めて実現へ向けて粘り強く頑張るということで、「共生」はもうちょっと周りに目を向けてみましょうということだと思います。「創造」はもっと広く見てみたらどうでしょうかということなので、関係性は並列だと思います。

委員長　「身に付けた上で」ではなく「身に付けるとともに」くらいの表現が適切ですね。三つの目標は、自分づくり、仲間づくり、社会づくりというような視点で捉えることもできると思います。もちろん、小さいうちは自分づくりがメインとなって、社会との関わりは薄いかもしれませんが、年齢とともにそのウエートは変わってくるものだと思います。

委　員　「身に付けた上で」という前提がなくなれば、並列の関係になると思います。「多様な人々と協働して」は「みんなで協働して」でもいいと思います。多様

性は「共生」のところでかなりはっきり出しています。

委　員　　計画の体系としては、目標の三つは並列でいいと思います。多様性については、同じ言葉が別の目標にあってもいいのかなと感じます。

委員長　　私も、先ほど言ったように大事なことであれば、重複してもいいと思います。ただ、「協働」の重複もあります。

委　員　　逆に、あえて重複させない効果もあると思います。私はここでは「多様な人々と協働して」は入れなくていいのではないかと思います。「多様な人々」の解釈は結構難しいと思います。

委　員　　自ら進んで社会に関わることを第一に考えないと、よりよい未来に進んでいかないと思いますので、「自ら進んで」が「主体的に」になるのはいいと思います。ただ私は、キーワードは「自ら進んで社会と関わり」というフレーズだと感じていまして、言いたいことがずばりと表現されていて、誰でも理解できる言葉ではないかなと思いました。私も退職して地域と関わり始めて、自ら進んで社会と関わることについて考えるようになりました。いろんなイベントをやるけれど、一部では関わりますが、他では全く関わらないというようなこともあります。「多様な人々」も、それぞれ状況が違う老若男女であると思いますが、進んで社会と関われるようになるには、いろいろな環境であったり地域の住民の協力が必要であったりすると思います。そのような意味で、「自ら進んで社会と関わり」というフレーズが入るといいなと思いました。

委　員　　「共生」で出てくる「多様性を大切に」と「創造」の「多様な人々と協働して」の多様は意味が違うと思います。それに「多様な人々と協働して」はごく自然な表現だと思います。「他者と協働して」などに比べてもこちらの方がいいと思います。

委員長　　今までの意見を整理すると、「自ら進んで変化する社会と関わり、多様な人々と協働してよりよい社会を創る力の育成」となりますでしょうか。私としては、大事なことであれば繰り返し入れてはどうかという思いもあります。ここでは案作りの段階ですので、違うところで見直しがあるかもしれません。

委　員　　基本目標に同じ言葉を二度使うことは、表記の上でも考慮した方が良いと思います。

委員長　　確かに混乱する可能性もありますね。重点的な取組の「協働」とどう使い分

けるのかという議論が生まれてくると思いますが、それを分かった上で、提案してみてはどうでしょうか。ということで一旦、先ほどの案で固めさせていただきたいと思います。

委　員　計画を策定する中では、いろいろな言葉が入ってきて、初めてバランスが分かってくることもあると思いますので、時には議論を戻すことも必要ではないかと思います。

委員長　その通りだと思います。

委　員　そこが確認できれば、今のところの意見の集約としてはそれでいいと思います。ただ、バランスを踏まえて議論を戻すことも必要だと思います。

委員長　議論しているときは、そこしか見ていないので、全体を見渡すとバランスが悪いということもあるので、議論を戻して考え直すことはあり得ると思います。では、ここまでのところは、よろしいでしょうか。

一　同　（異議なし）

委員長　「安心」の置き場所は、とりあえず資料にあるこの位置にして方針に進みたいと思います。では方針について事務局から説明をお願いします。

≪事務局説明の概要≫

資料２に基づき、基本方針案について説明。

≪質疑≫

委員長　方針の１から３が学校教育、６から８が社会教育、４と５は両方にまたがるということでした。まず、方針１についてですが、いわゆる学校教育の根幹にある部分で、生きる力はこの 20 年間大事なキーワードとして使われてきました。いかがでしょうか。

委　員　自立に繋がらない生きる力というのは、ないように思います。

委員長　「自立に繋がる」という文言を使っている理由はありますか。

事務局　はっきりとはありませんが、国の教育振興基本計画にある教育政策の重点事項で「自立」「協働」「創造」が掲げられていることなどから、ここで自立を使

っています。

委員長　言わんとするところは分かりますが、少し唐突な感じはありますね。

事務局　学んだことが社会につながる、将来につながるというイメージですが、確かに唐突な印象はあるかもしれません。

委　員　自立するために学ぶので、私はいいと思います。しっかりとした個を確立するための学校教育であるとも言えます。

委　員　私は、前回提示された基本方針の方が分かりやすくていいと感じました。

委員長　確かな学力と豊かな心・健やかな体は分けた方がいいということですね。

委　員　私は前回よりこちらの方が良いと感じました。教育目標の分類には認知領域、情意領域、技能的側面があって、これらが包含されていると思います。以前よりすっきりした印象です。

委　員　二つの方針を今回一つにしたからこそ、「バランス良く育む」という言葉が使えると思います。確かな学力を大前提とされて、苦しんでいる子どもたちがたくさんいました。そういう意味からすると、学力だけでなく、心も体もバランス良く育むという部分が教師にとっても、子どもにとっても、保護者にとっても、地域の人にとってもいいように思います。文部科学省の人たちは自立の「立」後に括弧で「律」を加えて使っています。生きる力はあまりにも長く使われてきましたが、それがどういうことなのかというと、国では「自立（律）」という言葉が使われているようですし、今回のものはすっきりとしていて良いと思います。

委　員　今はあまりにもセルフコントロールの力が弱くなっています。昔は父親が怒って規範意識や道徳観を育てていました。今は優しさばかりで、そういうものが弱くなっていますし、自由のはき違えもあります。きちんと学んで尊い一票を行使してこそ、素晴らしい民主主義ができるのに、真剣に考えないし、他者に委ねてしまっている状況です。そういう意味で、自立という言葉はいいと思います。

委　員　自立というのは最終的な到達地点だと思います。今セルフコントロールということをおっしゃいましたが、私も一時期保護者にこういう力を育てなければ駄目だということを話していました。その時は自己統制力と言っていましたが、

その自己統制力を付けるための学校教育、家庭教育、地域教育だと盛んに言っていたことがありました。やはり、より良い自立のための計画としては、自立という言葉は入れるべきだと思います。

委員長　分かりました。では方針１はそういう方向でいきましょう。方針２は、教職員の指導に関わることを子どもたちの視点から書き直しているという説明でした。

委　員　人的支援の充実というと、先生の数を増やすという意味として捉えられてしまう気がします。それよりは先生のサポート体制、支援体制の充実という意味合いにすべきだと思います。

委　員　私も人的な支援に特化しない方がいいと思います。

委　員　学校の教員の立場で言うと、人的支援と書いてくれた方がありがたいですが、数の問題になってしまうと思います。

委員長　人の頭数も大事ですが、教員一人一人の指導力を高めることも欠かせないことだと思いますので、支援体制とする必要があるように思います。ここでは、「子どもたちを育てる支援体制の充実」としたいと思います。今日はここまでとしたいと思いますが、他に御意見はありますか。

委　員　青少年健全育成会には学校からいろいろな要請がありますが、例えば草刈り、簡単な引率、プールの安全の見守り、クラブ活動の指導などは、先生でなくても地域の年配者でもできることだと思います。中学生の地域での活動には必ず先生が引率していることも大変だなと感じています。

委　員　基本目標が形になり、次に基本方針に進む中で、また目標に戻って検討できるということは、良いことだと思います。長年ＰＴＡ活動をする中で、学校の先生を見てきていると、人的支援の充実という言葉はすごく魅力的だと感じました。今まであまり聞いたことがなかったように思います。言葉としては支援体制になりそうですが、しっかりと支援を進めてもらいたいと思います。

委　員　私も人的支援の必要性を感じています。学校で学習支援をしていると、先生たちが本当に大変であることが分かります。午前中にクラスで先生が怒って子どもが委縮してしまったとしても、それは昼休みに子どもと一緒にサッカーなどをして楽しく遊ぶと、すぐにわだかまりは解消されて、子どもたちは怒った意味や先生の愛情が分かります。ただ、先生はやることが多くて昼休みに遊び

に行けないときもあります。学習サポーターに丸付けや音読のチェックなどをしてもらうと、先生は本当に助かるようです。ただ、３クラスで２人しかおらず十分ではないと感じますので、人的支援は更に進めてほしいと思います。

委員長　ありがとうございました。最後に事務局から連絡事項はありますか。

事務局　今後の予定を案内させていただいています。出欠について、事務局まで連絡をお願いします。また、次回の資料は事前に送付したいと考えていまして、意見がありましたら、事前に事務局に送っていただいても構いません。次回は目標と方針の全体像を見ていただいて、方針一つ一つの言葉も見ていただきたいと思います。答申に向けて、皆さんからの事業提案もいただいて、まとめていきたいと考えています。

３　閉　会